



2022 年 9 月 期 決算説明

株式会社 丸山製作所

代表取締役社長 内山剛治

次の100年を創る
-All for the Future-



目次

- | | | |
|--------------|------|------|
| 1. 2022年9月期 | 業績概要 | P.2 |
| 2. 2023年9月期 | 業績予想 | P.14 |
| 3. 第8次中期経営計画 | | P.19 |
| 4. 参考資料 | | P.30 |
| 会社概要 財務諸表 等 | | |



1 2022 年 9 月期 業績概要

【2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日】

2 2023 年 9 月期 業績予想

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3 第 8 次中期経営計画

【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4 参考資料

会社概要 財務諸表 等

2022年9月期 業績概要

単位：百万円	2021年9月期 実績		2022年9月期 通期予想	2022年9月期 実績		
	金額	売上高 比率	金額	金額	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	37,503	—	37,700	39,639	+ 2,136	+ 5.7%
営業利益	1,387	3.7%	1,500	1,521	+ 134	+ 9.7%
経常利益	1,302	3.5%	1,450	1,635	+ 333	+ 25.6%
当期純利益	855	2.3%	1,000	1,158	+ 303	+ 35.3%
為替レート 米ドル	108 円		110 円	122 円		
為替レート ユーロ	129 円		132 円	135 円		

経済

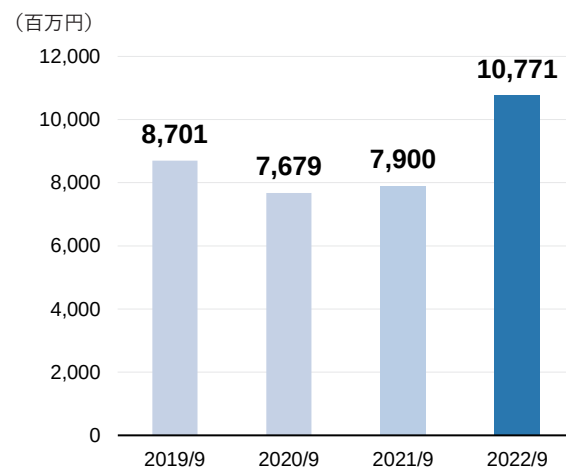
- ・新型コロナウイルス新規感染者数の減少
- ・社会経済活動制限の緩和による緩やかな回復
- ・半導体不足や原材料費高騰
- ・エネルギー問題や大幅な円安
- ・ウクライナ情勢の長期化

変動要因

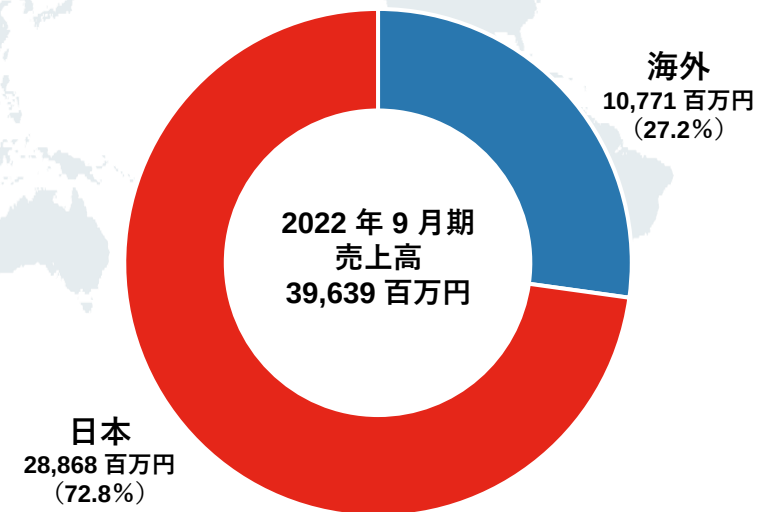
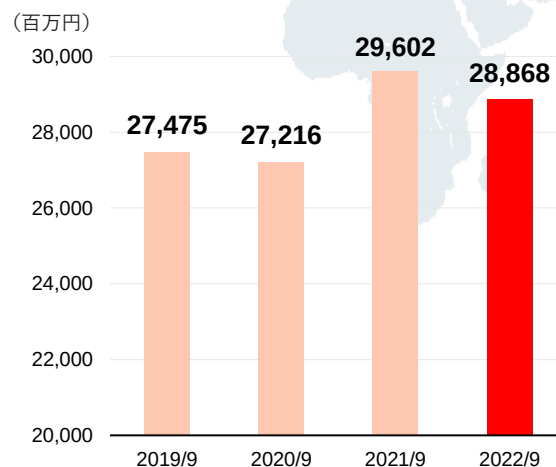
- 【日本】 ・ 工業用ポンプの増加
- ・ 経営継続補助金政策の反動などによる大型機械や動力噴霧機の減少
- 【海外】 ・ 北米、欧州向け工業用ポンプの増加
- ・ 中南米を中心に刈払機が増加

海外の売上高の状況

海外



日本



単位：百万円	2021年9月期 実績		2022年9月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
海外	7,900	21.1%	10,771	+ 2,871	+ 36.3%	27.2%
日本	29,602	78.9%	28,868	△ 734	△ 2.5%	72.8%

農林業用機械

- ・ 動力噴霧機
- ・ 動力散布機
- ・ 高性能防除機
- ・ 刈払機
- ・ チェンソー
- ・ その他



工業用機械

- ・ 工業用高圧ポンプ
- ・ 高圧洗浄機



その他の機械

- ・ 消火器
- ・ 防災関連機器
- ・ 環境衛生用機械
- ・ その他

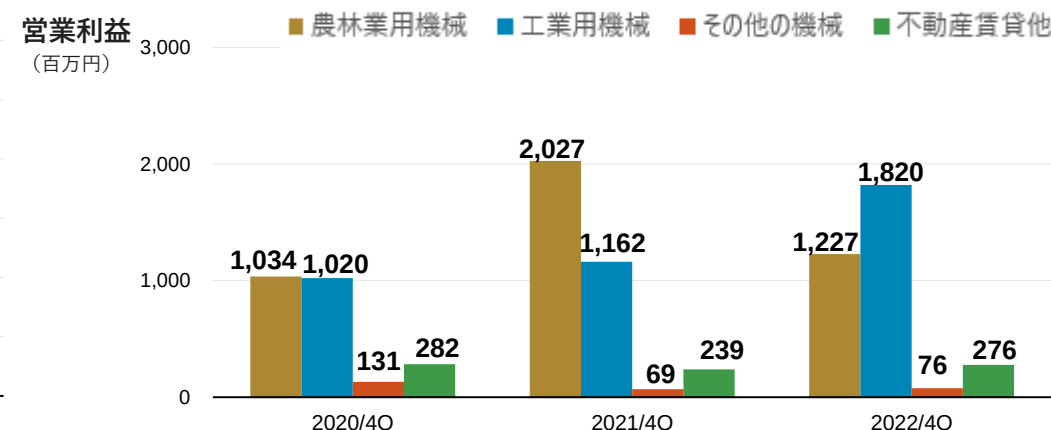
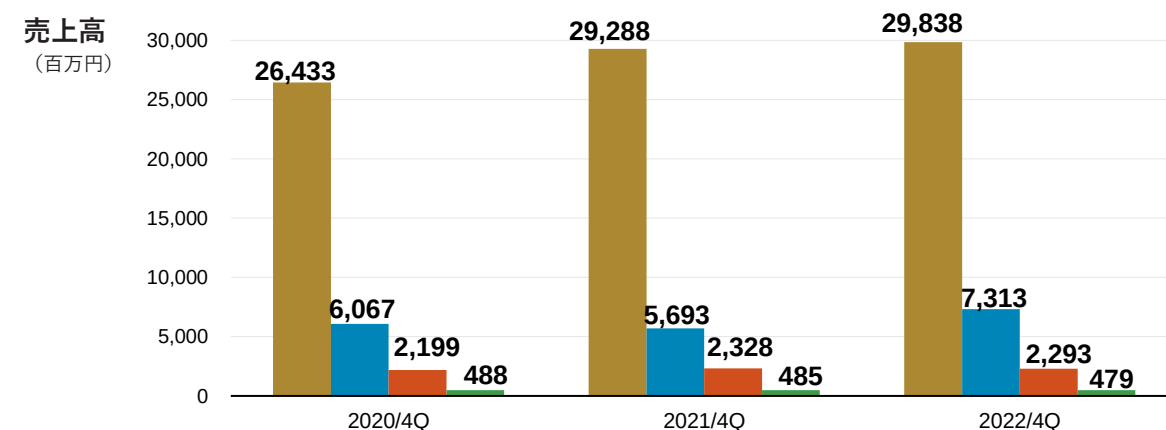


不動産賃貸他

- ・ 不動産賃貸
- ・ 売電事業

セグメント別 業績概要

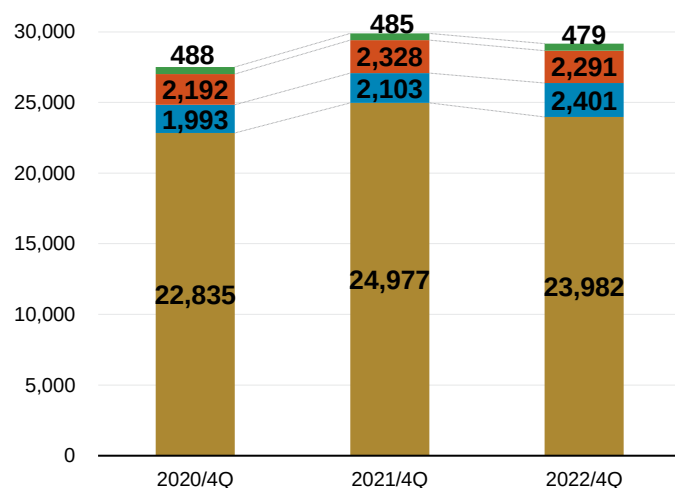
単位：百万円	2021年9月期 実績			2022年9月期 実績							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比	営業 利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	29,288	77.5%	2,027	29,838	+ 550	+ 1.9%	74.7%	1,227	△ 800	△ 39.4%	36.1%
工業用機械	5,693	15.1%	1,162	7,313	+ 1,620	+ 28.5%	18.3%	1,820	+ 658	+ 56.6%	53.5%
その他の機械	2,328	6.2%	69	2,293	△ 35	△ 1.5%	5.8%	76	+ 7	+ 9.4%	2.2%
不動産賃貸他	485	1.3%	239	479	△ 6	△ 1.2%	1.2%	276	+ 37	+ 15.5%	8.1%
調整額 (セグメント間取引)	△ 291	—	△ 2,111	△ 285	+ 6	—	—	△ 1,878	+ 233	—	—
合計 (うち海外)	37,503 (7,900)	100.0% (21.1)	1,387	39,639 (10,771)	+ 2,136 (+ 2,871)	+ 5.7% (+ 36.3%)	100.0% (27.2%)	1,521	+ 134	+ 9.7%	100.0%



セグメント別 売上高（日本）

売上高

（百万円）



不動産賃貸他

479 百万円
(1.6%)

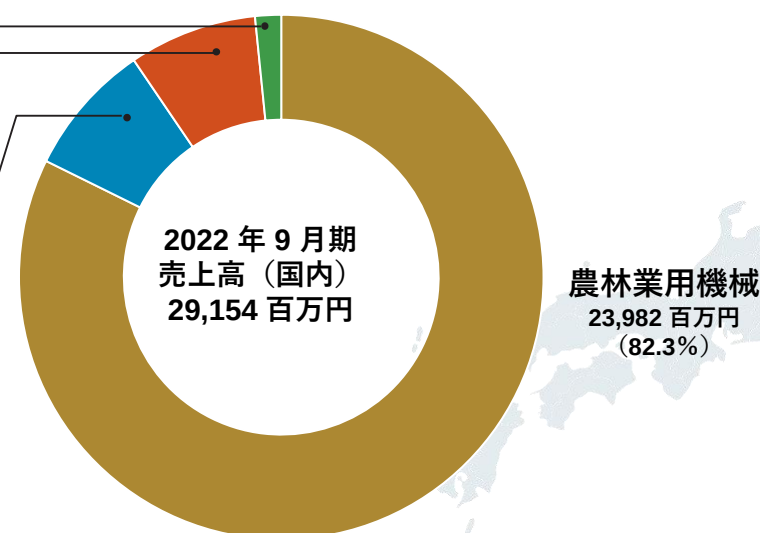
その他の機械

2,291 百万円
(7.9%)

工業用機械

2,401 百万円
(8.2%)

農林業用機械：経営継続補助金政策の反動などによる売上の減少
工業用機械：工業用ポンプの増加



単位：百万円	2021 年 9 月期 実績		2022 年 9 月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
農林業用機械	24,977	83.6%	23,982	△ 995	△ 4.0%	82.3%
工業用機械	2,103	7.0%	2,401	+ 298	+ 14.2%	8.2%
その他の機械	2,328	7.8%	2,291	△ 37	△ 1.6%	7.9%
不動産賃貸他	485	1.6%	479	△ 6	△ 1.2%	1.6%

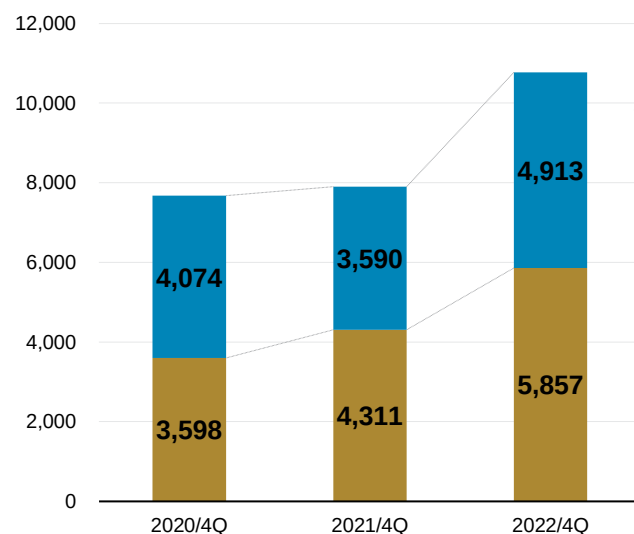
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

セグメント別 売上高（海外）

農林業用機械：中南米を中心とした刈払機の増加
工業用機械：北米、欧州向けの工業用ポンプの増加

売上高

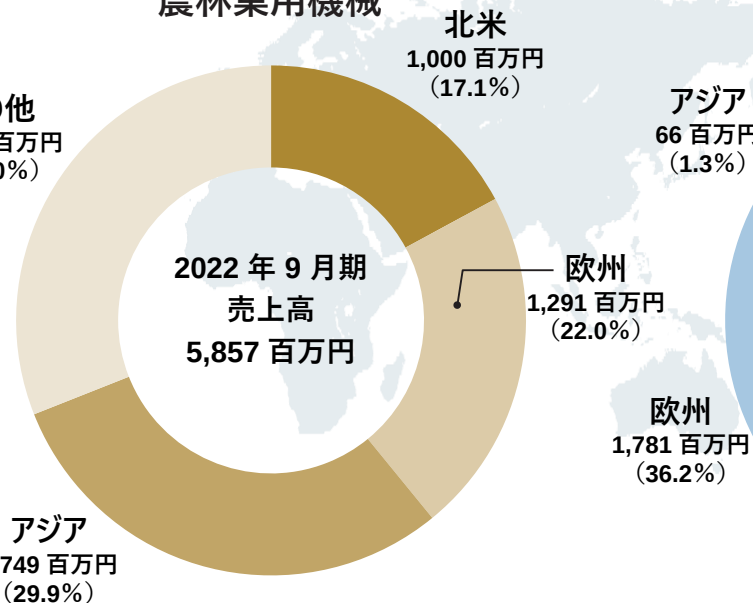
(百万円)



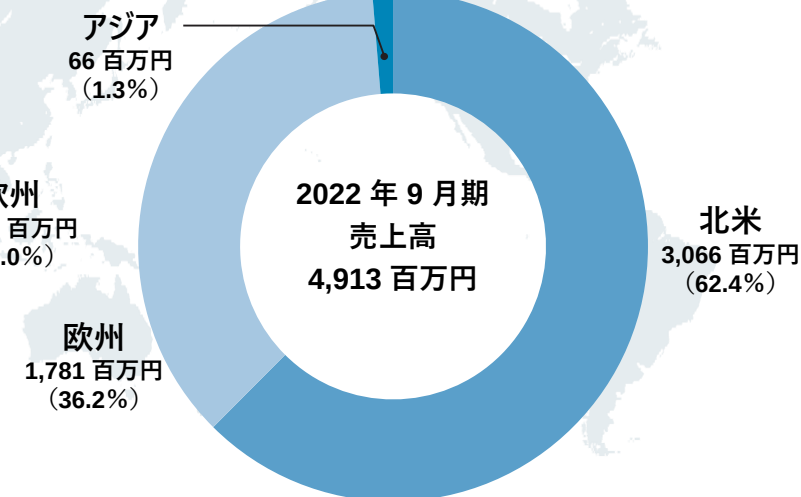
その他
1,817 百万円
(31.0%)

アジア
1,749 百万円
(29.9%)

農林業用機械



工業用機械



単位：百万円	2021 年 9 月期 実績		2022 年 9 月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
農林業用機械	4,311	54.6%	5,857	+ 1,546	+ 35.9%	54.4%
工業用機械	3,590	45.4%	4,913	+ 1,323	+ 36.7%	45.6%

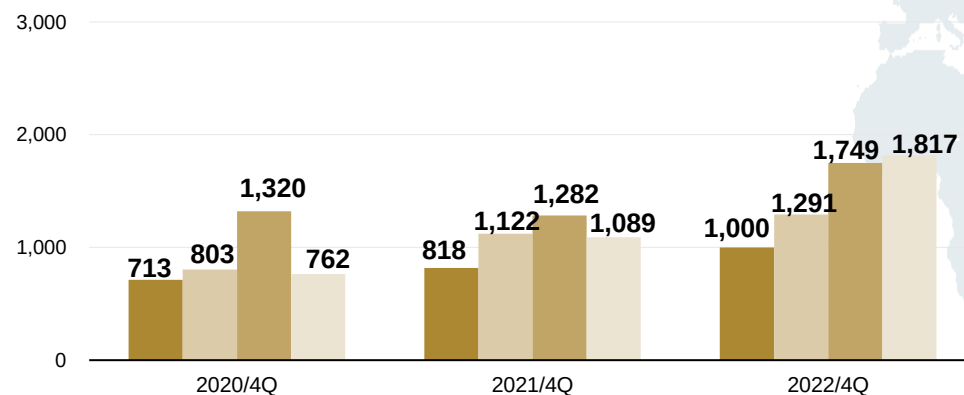
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

セグメント別 売上高（海外地域別）

売上高（農林業用機械）

（百万円）

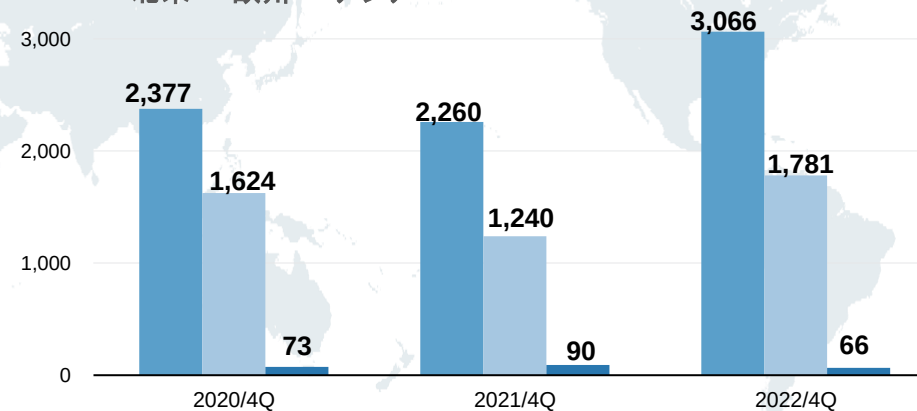
■ 北米 ■ 欧州 ■ アジア ■ その他



売上高（工業業用機械）

（百万円）

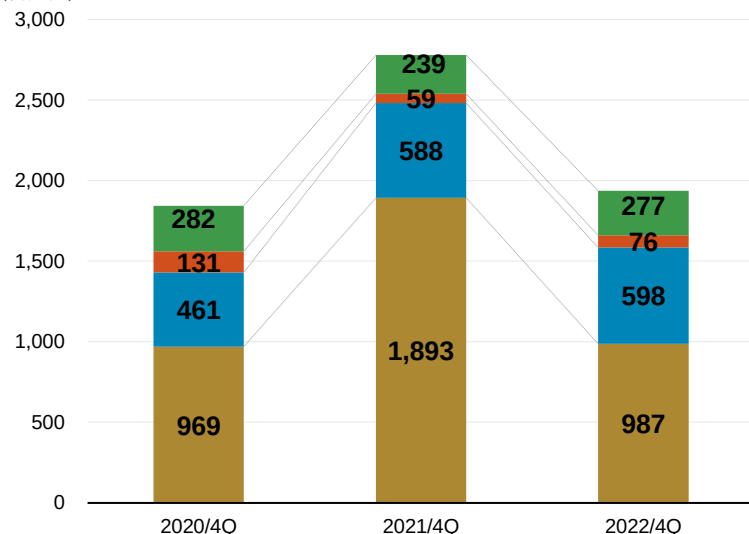
■ 北米 ■ 欧州 ■ アジア



単位：百万円	2021年9月期 実績		2022年9月期 実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
農林業用機械	4,311	54.6%	5,857	+ 1,546	+ 35.9%	54.4%
北米	818	10.6%	1,000	+ 182	+ 22.2%	9.3%
欧州	1,122	14.2%	1,291	+ 169	+ 15.1%	12.0%
アジア	1,282	16.2%	1,749	+ 467	+ 36.4%	16.2%
その他	1,089	13.8%	1,817	+ 728	+ 66.9%	16.9%
工業用機械	3,590	45.4%	4,913	+ 1,323	+ 36.7%	45.6%
北米	2,260	28.6%	3,066	+ 806	+ 35.7%	28.5%
欧州	1,240	15.7%	1,781	+ 541	+ 43.6%	16.5%
アジア	90	1.1%	66	△ 24	△ 26.7%	0.6%

セグメント別 営業利益（日本）

営業利益
(百万円)



営業利益比率（日本）

不動産賃貸他
14.3%

その他の機械
3.9%

工業用機械
30.9%

農業用機械
50.9%

農林業用機械：

昨年の経営継続補助金政策の反動による売上減に伴う営業利益の減少
原材料高騰に伴う値上げを実施するも営業利益は悪化

単位：百万円	2021年9月期 実績		2022年9月期 実績			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農業用機械	1,893	67.9%	987	△ 906	△ 52.1%	50.9%
工業用機械	588	21.1%	598	+ 10	+ 1.7%	30.9%
その他の機械	69	2.5%	76	+ 7	+ 10.1%	3.9%
不動産賃貸他	239	8.6%	277	+ 38	+ 15.9%	14.3%

※営業利益は全社費用等調整前の金額であります。

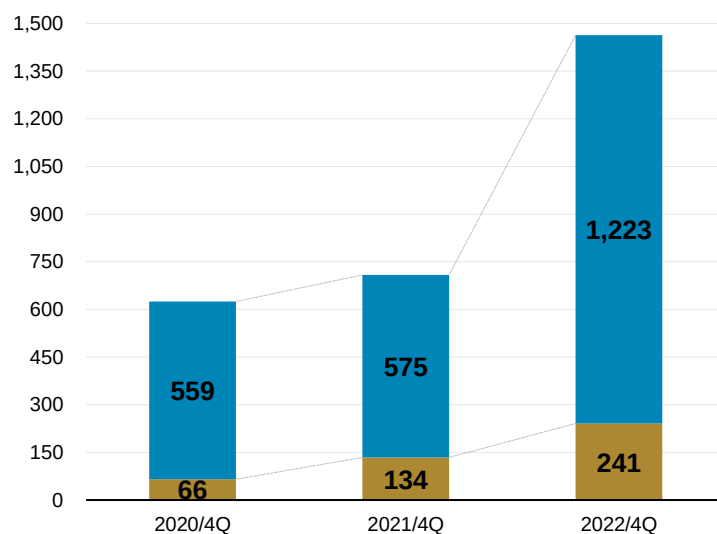
セグメント別 営業利益（海外）

工業用機械：北米市場の景気回復

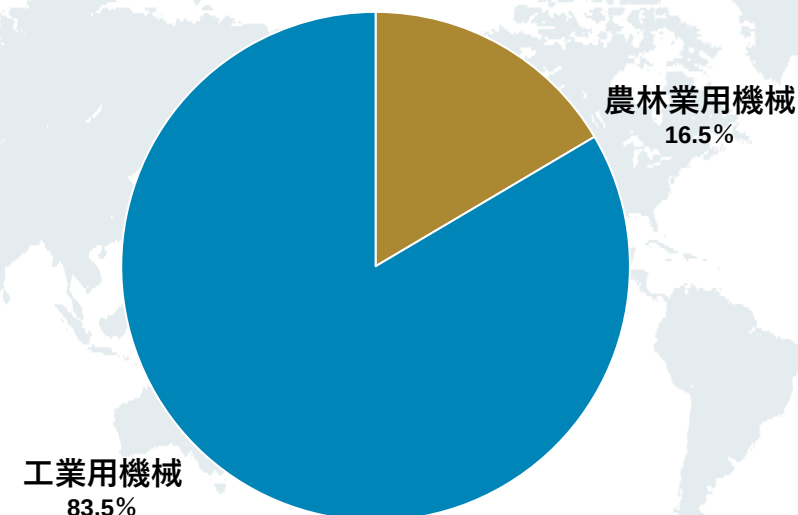
原材料費高騰に伴う値上げ効果による営業利益改善

営業利益

(百万円)



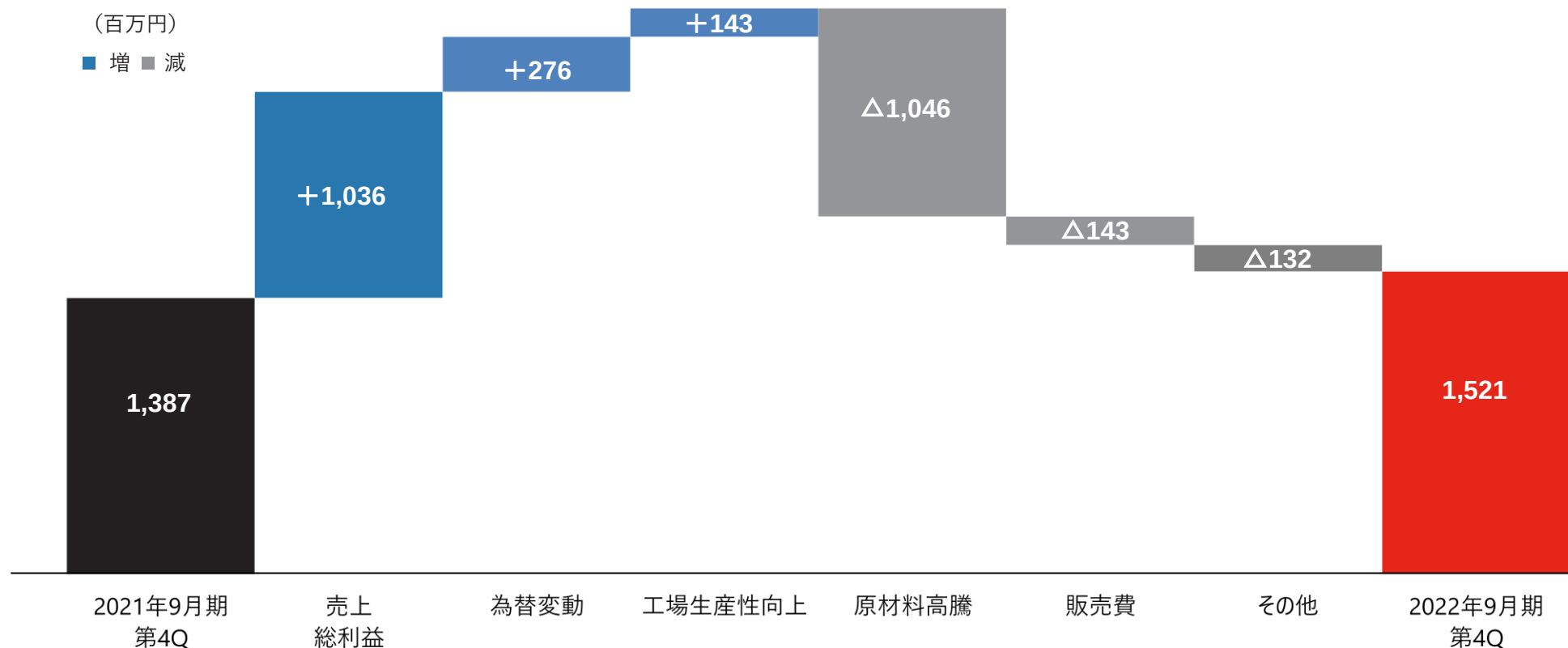
営業利益比率（海外）



単位：百万円	2021年9月期 実績		2022年9月期 実績		
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率 営業利益 構成比
農林業用機械	134	18.9%	241	+ 107	+ 95.9% 16.5%
工業用機械	575	81.1%	1,223	+ 648	+ 67.2% 83.5%

※営業利益は全社費用等調整前の金額であります。

2022年9月期 増益分析（営業利益）



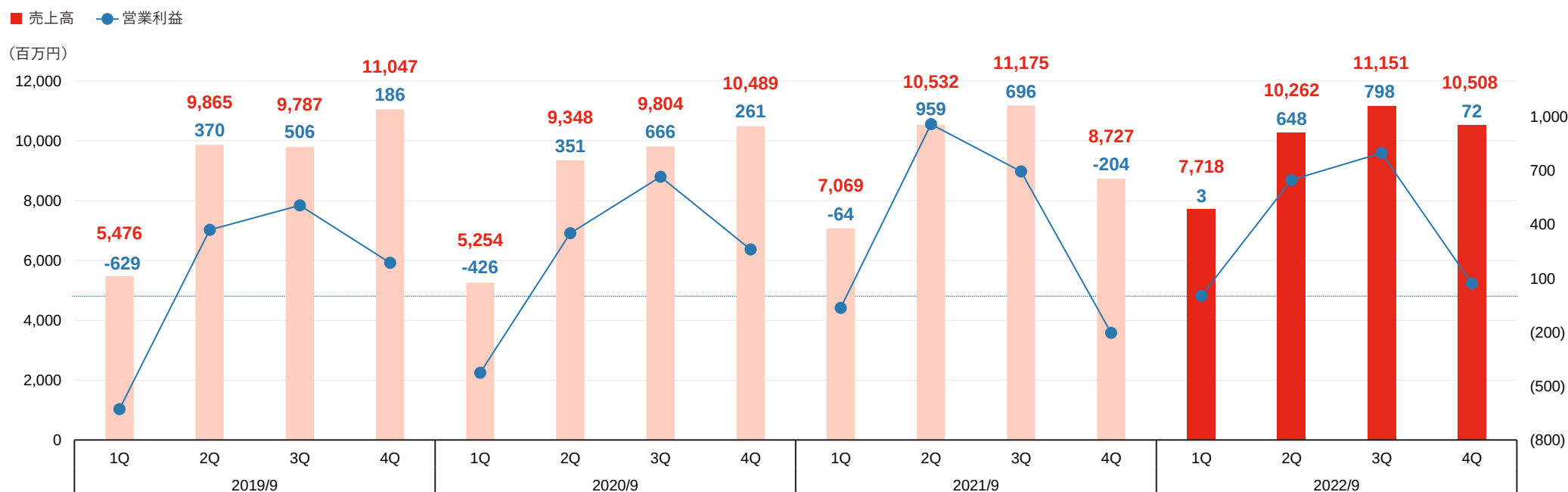
【＋】 値上げ等による売上総利益の増加（＋1,036）、および売上増加に伴う為替影響（＋475）、工場生産性向上（＋143）が主な要因

【－】 原材料高騰（△1,046）、仕入増加に伴う為替影響（△199）、営業活動再開に伴う販管費の増加（△143）が主な要因

売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

売上高は 39,639 百万円（前年同期比 5.7%増）
営業利益は 1,521 百万円（前年同期比 9.7%増）

※国内の農業用機械の需要期が3月から7月であるため、売上・利益ともに第1四半期は他の期に比べ少ない傾向にあります。





1

2022 年 9 月期 業績概要

【2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日】

2

2023 年 9 月期 業績予想

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3

第 8 次中期経営計画

【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4

参考資料

会社概要 財務諸表 等

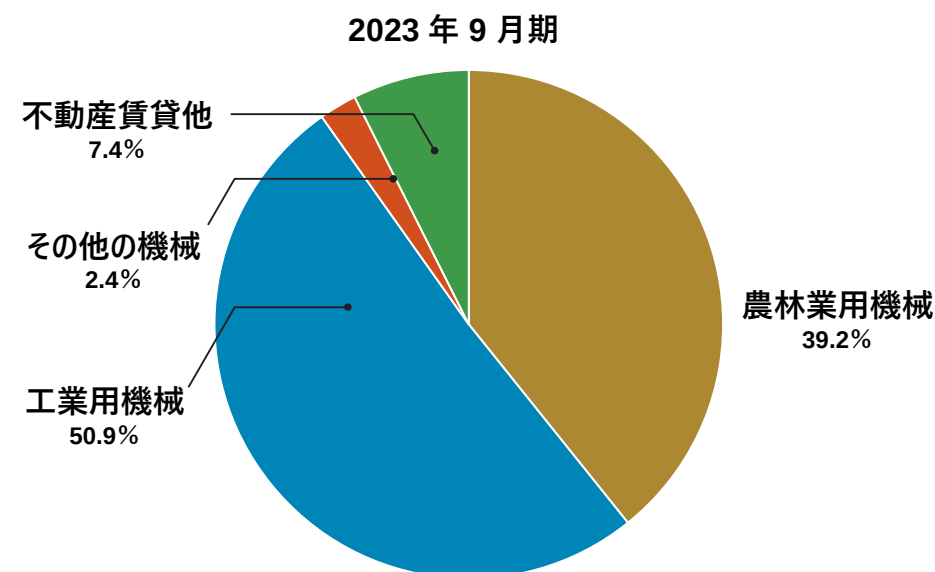
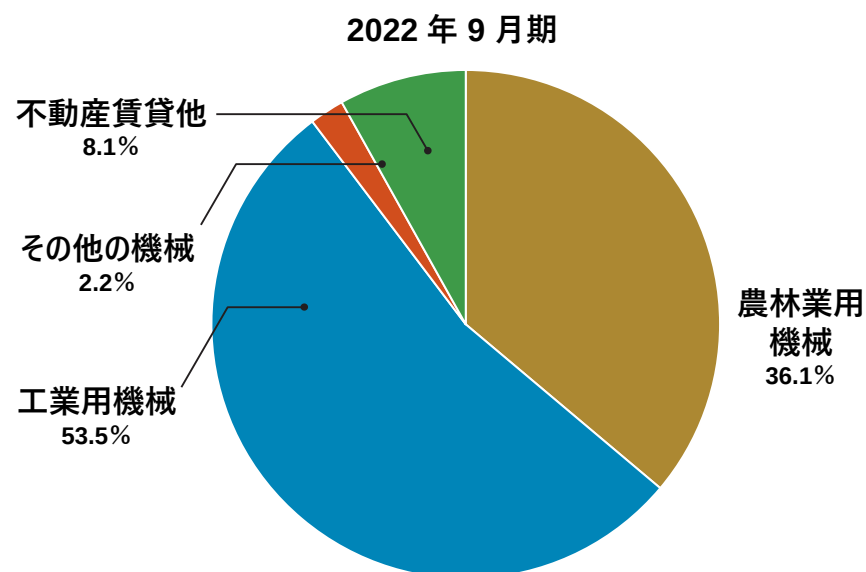
2023年9月期 業績予想

単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 通期予想				2023年9月期 第2四半期予想	
	金額	売上高 比率	金額	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 比率	金額	前年同期 増減率
売上高	39,639	—	40,000	+ 361	+ 0.9%	—	18,500	2.9%
営業利益	1,521	3.8%	1,800	+ 279	+ 18.3%	4.5%	650	△ 0.3%
経常利益	1,635	4.1%	1,750	+ 115	+ 7.0%	4.4%	600	△ 15.7%
当期純利益	1,158	2.9%	1,200	+ 42	+ 3.6%	3.0%	400	△ 22.9%
為替レート 米ドル	122 円		135 円					
為替レート ユーロ	135 円		140 円					

2023年9月期 セグメント別業績予想

単位：百万円	2022年9月期 実績			2023年9月期 予想							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	売上高 増減額	売上高 増減率	売上高 構成比	営業 利益	営業利益 増減額	営業利益 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	29,838	74.7%	1,227	30,000	+ 162	+ 0.5%	74.5%	1,450	+ 223	+ 18.2%	39.2%
工業用機械	7,313	18.2%	1,820	7,475	+ 162	+ 2.2%	18.6%	1,885	+ 65	+ 3.6%	50.9%
その他の機械	2,293	5.8%	76	2,330	+ 37	+ 1.6%	5.8%	90	+ 14	+ 18.4%	2.4%
不動産賃貸他	479	1.2%	276	480	+ 1	△ 0.2%	1.2%	275	△ 1	△ 0.4%	7.4%
調整額 (セグメント間取引)	△ 285	—	△ 1,878	△ 285	—	—	—	△ 1,900	△ 22	—	—
合計 (うち海外)	39,639	100.0%	1,521	40,000	+ 361	+ 0.9%	100.0%	1,800	+ 279	+ 18.3%	100.0%

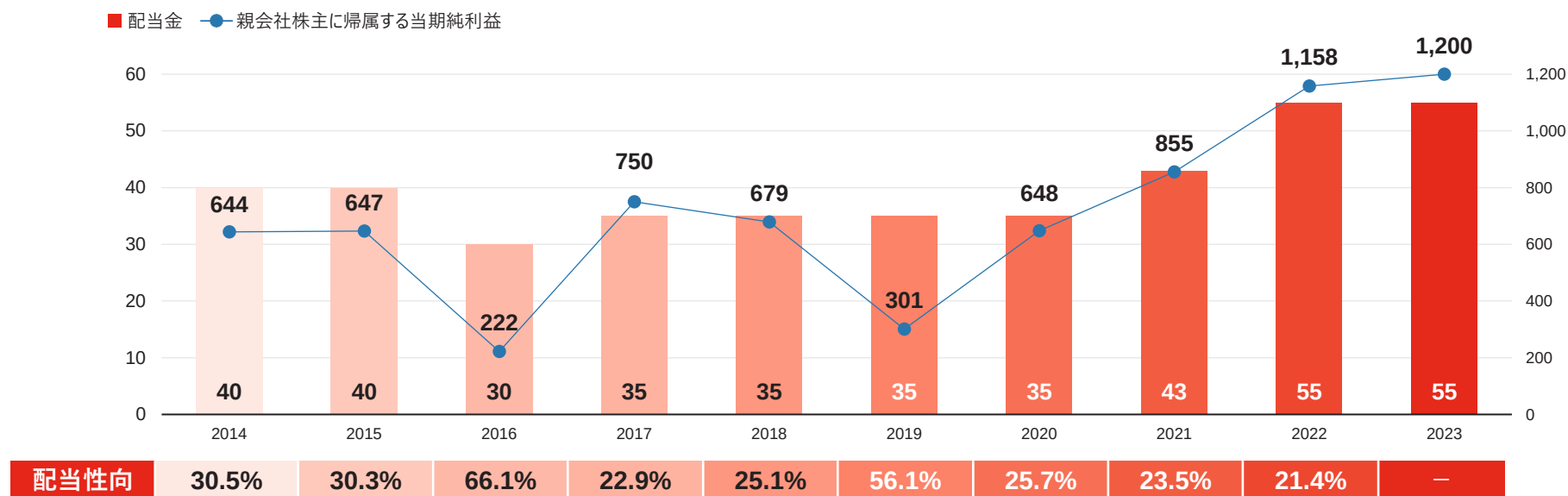
セグメント別 営業利益



単位：百万円	2022年9月期		2023年9月期			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	1,227	36.1%	1,450	+ 223	+ 18.2%	39.2%
工業用機械	1,820	53.5%	1,885	+ 65	+ 3.6%	50.9%
その他の機械	76	2.2%	90	+ 14	+ 18.4%	2.4%
不動産賃貸他	276	8.1%	275	△ 1	△ 0.4%	7.4%

株主還元

- ・安定的な配当を継続することを基本として、将来の事業展開に必要な内部留保ならびに業績見込みなどを勘案することを方針としております。
- ・来期の配当予想額は当期と同じ 1 株につき 55 円
- ・自社株式取得：119,000 株（取得価格の総額 183,191,700円）
期間は 2022 年 2 月 10 日～2022 年 8 月 9 日



※ 2017 年 4 月 1 日付で普通株式 10 株を 1 株とする株式併合を実施したため、1 株あたりの配当金については 2010 年に株式併合が行われたと仮定し、算定しております。



1 2022 年 9 月期 業績概要
【2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日】

2 2023 年 9 月期 業績予想
【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3 第 8 次中期経営計画
【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4 参考資料
会社概要 財務諸表 等

第7次中期経営計画の振り返り

単位：百万円	中計20-22 目標値	2020年 実績	2021年 実績	2022年 実績	増減額 (2022年比)	中計20-22 目標値 達成率 (2022年比)
売上高	37,700	34,895	37,503	39,639	+ 1,939	+ 5.1%
営業利益	1,500	852	1,387	1,521	+ 21	+ 1.4%
経常利益	1,450	763	1,302	1,635	+ 185	+ 12.7%
当期純利益	1,000	648	855	1,158	+ 158	+ 15.8%
ROE	6.0%	4.0%	5.2%	6.6%	+ 0.6	+ 10.0%

第7次中期経営計画

基本コンセプト	基本戦略	方針	
持続的成長を成し遂げる	収益の改善	◆品質対策	◆財務体質の強化
	イノベーションを巻き起こす	◆産機・海外事業の成長	◆スマート農業進出

第7次中期経営計画では「イノベーションを巻き起こす」内で掲げました産機事業・海外事業の拡販活動、スマート農業への進出、アフターサービスの充実など活動に取り組んでまいりました。その結果、2022年度は売上高及び営業利益が増加となり、売上高39,639百万円、営業利益1,521百万円、ROE6.6%と経営数値目標を達成することができました。

2030年 長期経営ビジョン

社会の課題

- ・ 調達難・材料高騰
- ・ 世界的食糧難・水不足
- ・ ウイルス対策
- ・ 人材・労働力不足
- ・ 環境問題
- ・ 国際政治・経済問題

2030年 長期経営ビジョン

- SDGsに繋がるESG経営の強化
- 社会貢献型企业として成長市場に進出

目標

- 食・水・環境分野の社会課題解決
- CO₂排出量 50%削減
- 女性管理職 7名

成長市場

【食・農業・畜産市場】

農薬の適量散布：大型防除機・ドローン・ウルトラファインバブル製品による課題解決

養殖・育苗：ウルトラファインバブル製品の投入

【環境市場】

消臭・節水・RO処理（水処理）・ミスト・気液混合・ウルトラファインバブルなどのポンプ技術による社会的課題の解決

環境ニーズ・リサイクルニーズへの対応

第8次中期経営計画（2023年9月期～2027年9月期）

◆ 中期経営計画コンセプト：「成長事業の創出」

ESG経営の強化

攻めのESG

食・水・環境市場
社会貢献

守りのESG

持続可能な体制づくり
リスク管理・投資・ガバナンス強化



第8次中期経営計画（2023年9月期～2027年9月期）

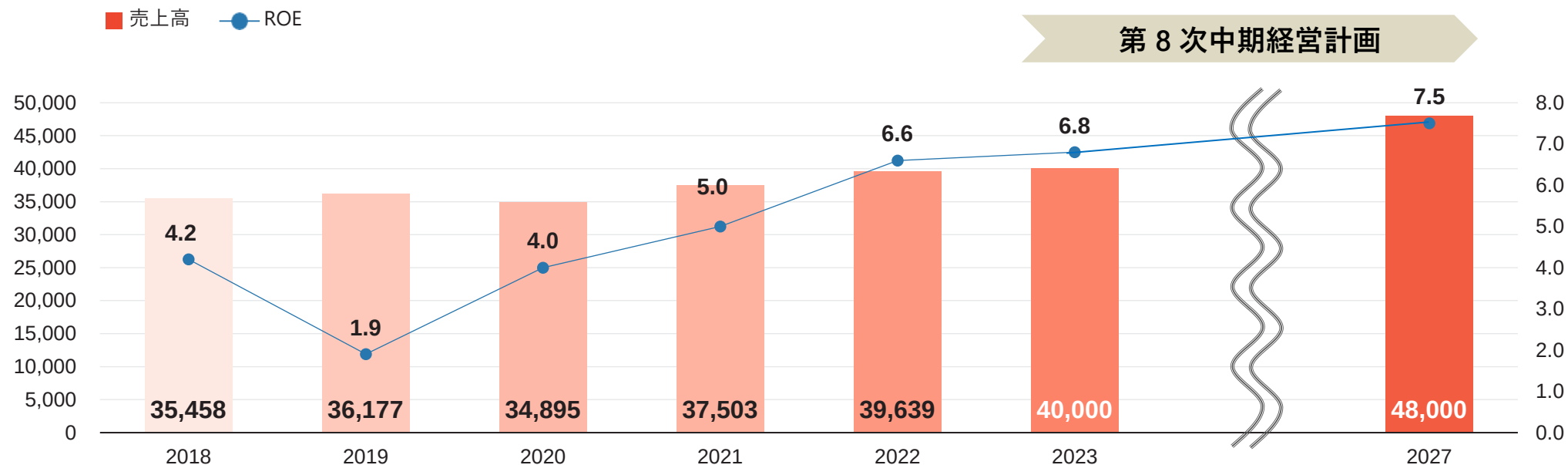
- ◆ MUFB技術の更なる進化とスマート農業化の促進
- ◆ 既存技術の進化
- ◆ 品質対策と製品安全の体制強化

- ◆ 国内の新市場開拓・既存市場の成長
- ◆ アジア市場へのリソース拡大
- ◆ 海外売上比率35%を目指す
- ◆ アフターマーケット強化

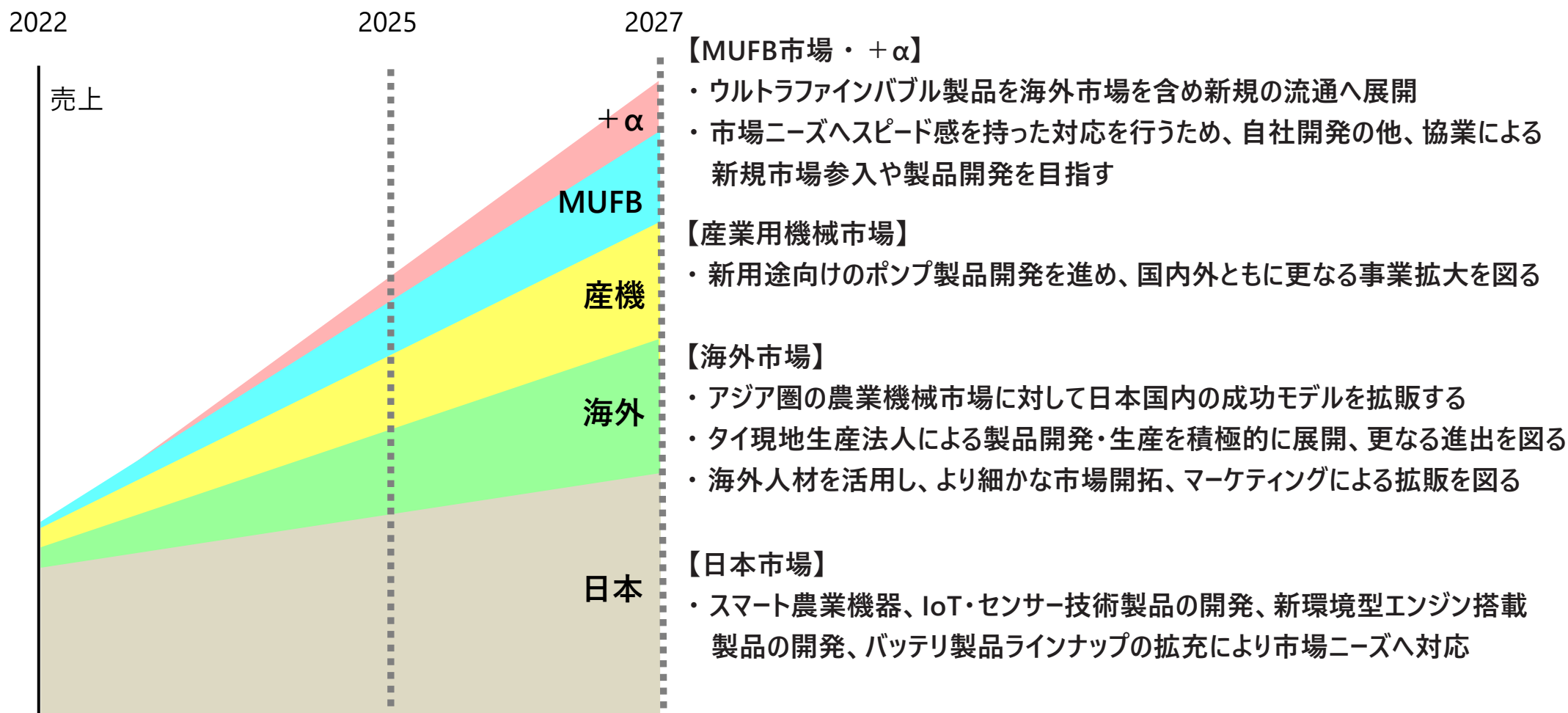


第8次中期経営計画の目標

単位：百万円	2022年度 実績	2023年度 目標値	2027年度 目標値
売上高	39,639	40,000	48,000
営業利益	1,521	1,800	2,800
ROE	6.6%	6.8%	7.5%



第8次中期経営計画 事業成長イメージ



成長事業の創出：MUFB（ウルトラファインバブル）技術

ウルトラファインバブルとは...1 μ m以下の微小な泡

- 抜群の洗浄能力
 - ① 洗剤なしでも洗濯ができる
 - ② 細菌・ウイルス・悪臭を破壊
- 生理活性効果
 - ① 植物や養殖魚の生育を促進

洗浄

- ・トイレの尿石が取れた
- ・臭いが減った
- ・除塩作業の効率が良くなった



水産業

- ・養殖魚が短期間で大きくなった
- ・鮮度が長く保たれるようになった



農業

- ・野菜のハリ、ツヤが良くなった
- ・果物の収穫量が増え甘さも増した



工業

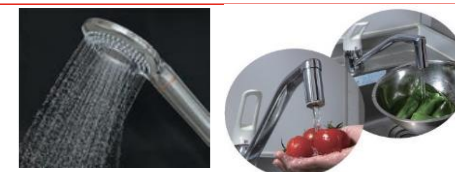
- ・洗浄力の向上により洗剤の量が減った
- ・金属加工で使う切削液が長持ちした



ファインバブル活用事例集を基に当社作成： https://k-rip.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/finebubble_ver4.pdf

家庭

- ・髪や肌がうるおった
- ・節水しながら洗い物ができる
- ・排水溝のニオイがなくなった



成長事業の創出：スマート農業・環境型製品への取り組み

大型機械

- ・車両情報を衛星により把握し、圃場内において高精度な自動操舵を実現
- ・自動操舵機能を搭載した製品を市場へ投入

自動走行や無人走行などの自動化に向けた製品開発およびIoT技術やセンサー技術を応用した製品開発に取り組みます。

スプレーガイダンス / オートステアリング



次の100年を創る
-All for the Future-

ドローン

- ・防除機メーカーである当社による農業用に特化した扱いやすい機体を販売
- ・GPS信号を受信した自動制御飛行
- ・資格取得の教習からアフターサービスまでトータルサポート体制を構築



ドローンの普及および安全な操作に向けて取り組みます。

環境型製品

- ・排気ガス規制に対応した新型エンジンを製品に搭載
- ・バッテリー製品のラインナップを拡充

環境負荷低減に向けた製品開発に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。



サステナビリティへの取り組み

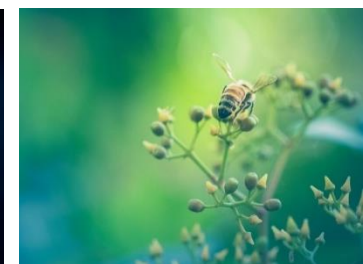
ESG経営、SDGsの達成に向けた取り組みをより一層推進するため、サステナビリティ委員会にてマテリアリティ特定、重要テーマ、KPIについて議論を進めております。

また、将来を担う若手メンバーを中心としたサステナビリティ推進委員会を発足し、同テーマについての議論をスタートいたしました。

丸山グループのコアテクノロジーであるポンプとエンジン技術を最大限発揮し、食・水・環境の分野において、事業活動を通じたサステナビリティを実現し、グローバルに社会貢献できるよう活動を継続してまいります。



【丸山製作所グループのサステナビリティ】



サステナビリティへの取り組み

【製品開発】

金属加工で使う水溶性の切削液（クーラント）を長寿命化する装置を開発しました。ウルトラファインバブル技術を活用し、クーラント液を瞬時にファインバブル化し菌の増殖による劣化や臭いを抑えます。添加剤は不要となるため、環境負荷低減に取り組む工作機械メーカーなどを対象に販売を開始いたします。



【製品イメージ】



【CO₂対策】

当社のメイン工場である千葉工場（東金市）で使用する電力を、再生可能エネルギー由来の電力へ変更いたしました。千葉工場から発生するCO₂排出量1,520t-CO₂のうち約80%を削減することができました。

全拠点において、CO₂削減に向けた取り組みを進めてまいります。



1 2022 年 9 月期 業績概要
【2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日】

2 2022 年 9 月期 業績予想
【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3 第 8 次中期経営計画
【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4 参考資料
会社概要 財務諸表 等

貸借対照表

単位：百万円	2021 年 9 月期 期末		2022 年 9 月期 期末		増減額	主要因
	金額	構成比	金額	構成比		
総資産	34,154	100.0%	34,459	100.0%	+ 305	
流動資産	21,863	64.0%	22,615	65.6%	+ 751	現金・預金、電子記録債権、原材料等の増加 受取手形の減少
固定資産	12,291	36.0%	11,844	34.4%	△ 305	期末日に時価の下落などによる投資有価証券の減少
流動負債	14,757	43.2%	14,293	41.8%	△ 464	短期借入金の増加 1年内返済予定の長期借入金の減少
固定負債	2,407	7.0%	2,466	7.2%	+ 58	社債の増加
純資産	16,989	49.7%	17,699	51.4%	+ 710	

	2021 年 9 月期 期末	2022 年 9 月期 期末
自己資本比率	49.7%	51.1%
流動比率	148.2%	158.2%

(注) 1. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度の総資産の金額については、当該会計基準等を遡って適用した後の金額となっております。

キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2021年 9 月期 期末	2022年 9 月期 期末	増減額	変動要因
営業活動によるキャッシュフロー	1,927	2,259	+ 331	その他に含まれる未収金の減少
投資活動によるキャッシュフロー	△ 1,061	△ 627	△ 433	有形固定資産の取得による支出の減少
フリーキャッシュフロー	866	1,632	+ 766	
財務活動によるキャッシュフロー	△ 998	△ 1,114	+ 115	長期借入金の減少
現金及び現金同等物期末残高	4,012	4,658	+ 646	

会社概要

社 名	株式会社丸山製作所
代 表 者	代表取締役社長 内山 剛治
本 社	〒101-0047 東京都千代田区内神田3丁目4番15号
創 業・設 立	【創業】1895年 【設立】1937年11月
資 本 金	46億51百万円
売 上 高	396億39百万円（2022年9月期）
事 業 年 度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
上 場	東京証券取引所 スタンダード
従 業 員 数	【単体】593名 【連結】952名（2022年9月30日現在）
証 券 コ ー ド	6316
事 業 内 容	農林業用機械、工業用機械、消防機械の製造・販売
U R L	https://www.maruyama.co.jp/

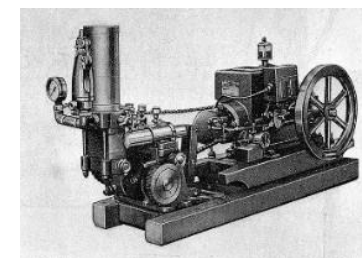


沿革

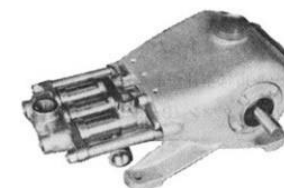
- 1895 年 新潟県高田町にて丸山商会を創業（日本で初めて消火器を製造）
- 1918 年 人力噴霧器の製造・販売
- 1935 年 動力噴霧機の製造・販売
- 1937 年 株式会社丸山製作所を設立
- 1961 年 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1967 年 工業用ポンプを開発
- 1977 年 東京証券取引所市場第一部に指定
- 1990 年 オリジナル 2 サイクルエンジン開発
- 2000 年 新環境型 2 サイクルエンジンを開発
カリフォルニア州排ガス規制クリア
- 2004 年 消火剤リサイクル…eco 消火器を販売
- 2012 年 キャビン付ハイクリブームの開発
- 2016 年 マルチローター（ドローン）の開発
- 2018 年 ハイクリブーム発売 30 周年を迎える
- 2020 年 創業 125 周年



丸山式消火器



横型三連式動力噴霧機



工業用ポンプ



2 サイクルエンジン



キャビン付ハイクリブーム

当社の事業内容



農林業用機械分野

現在、丸山グループの基幹となっている事業です。

丸山独自のポンプを使用した防除機は、
変化し続ける農家の皆様のニーズに対応すべく、
多種多様な製品を製造・販売しております。
また、自社製の2サイクルエンジンを使用した刈払機、
チェーンソーなども扱っています。

産業機械分野

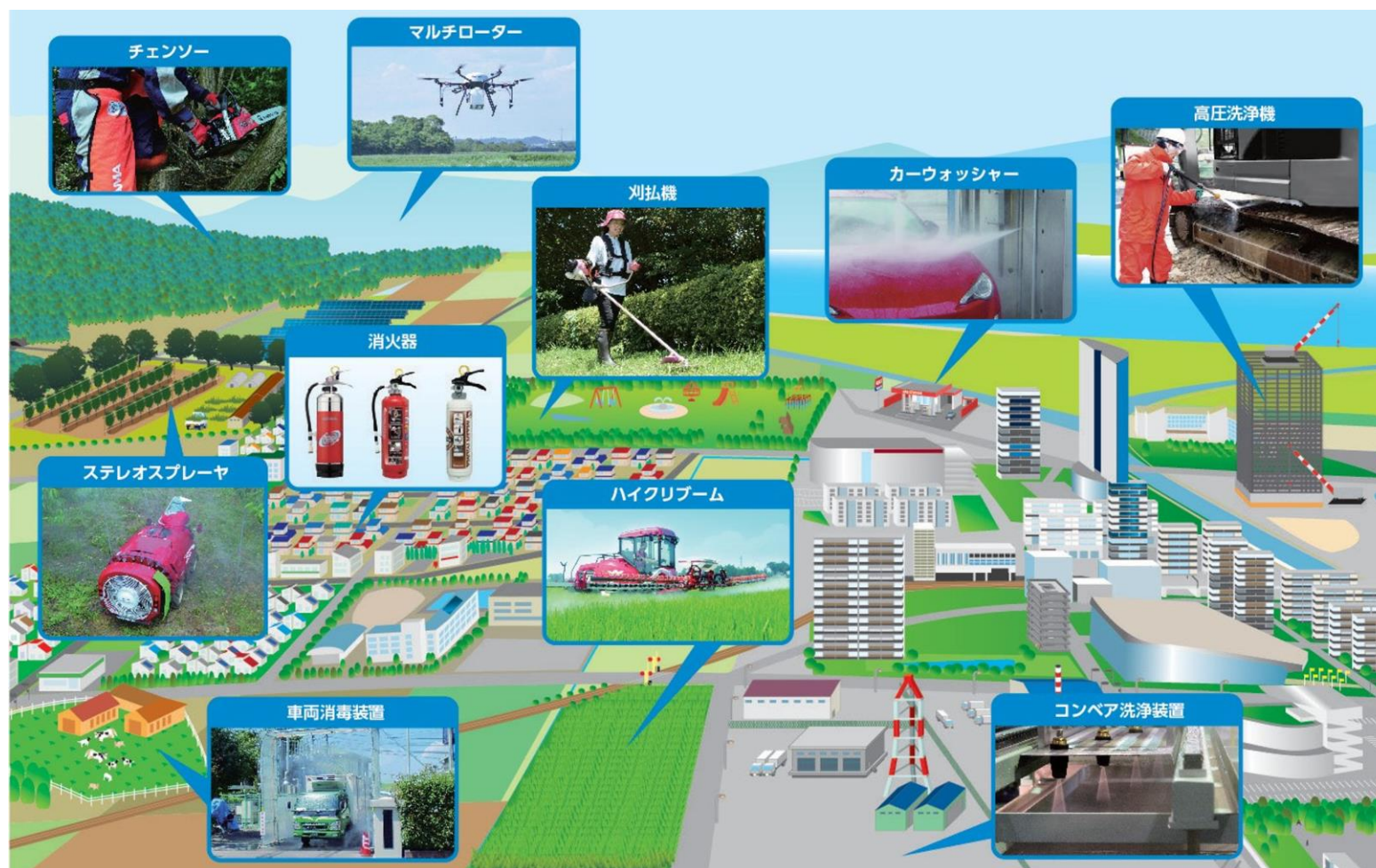
現在、丸山製作所が力を入れている事業です。

高圧洗浄機や洗車機、ミスト装置などに使われる
産業用の高圧ポンプの開発・製造を行っております。
また、畜舎内での病原菌の感染を防ぐ車両消毒装置など、
環境衛生機器分野にも丸山製作所のポンプは活用されております。

防災関連分野

丸山製作所は日本で最初に消火器の製造・販売をした企業です。
多様化する社会の中で「環境とより安全な消火器で社会に貢献する」という
理念のもと、消火薬剤のリサイクル化を進め、
技術改良と製品開発により、さまざまなニーズに対応しております。

当社製品



当社の主力

消火器の製造から始まり、現在ではポンプ・エンジンが当社のコアテクノロジーです。

ポンプとエンジンは製品の動力源であり、製品の心臓部となるものです。様々な分野の製品で活用されています。



ポンプ & エンジン

当社の強み（製品）

当社の製品は様々な分野でトップシェアを獲得しています。



ポンプ製品の農業用防除機で
国内トップシェア



海外（北米）でのカーウォッシュ用ポンプで
トップシェア



エンジン製品の刈払機でホームセンター流通に
おいて国内トップシェア

国内の販売・生産・サービス拠点

本社 東京都千代田区

生産拠点 3ヶ所
千葉県東金市（2ヶ所）
岡山県苫田郡

営業拠点 全国 25ヶ所
北海道（江別・帯広）／青森／岩手／秋田／
山形／宮城／福島／茨城／栃木／千葉／新潟／
長野／山梨／石川／愛知／静岡／大阪／広島／
岡山／香川／福岡／熊本／鹿児島／宮崎

物流拠点 3ヶ所
福島県／千葉県／岡山県

関係会社 日本クライス株式会社
マルヤマエクセル株式会社
西部丸山株式会社
丸山物流株式会社

千葉工場 （東京ドーム3個分の敷地）



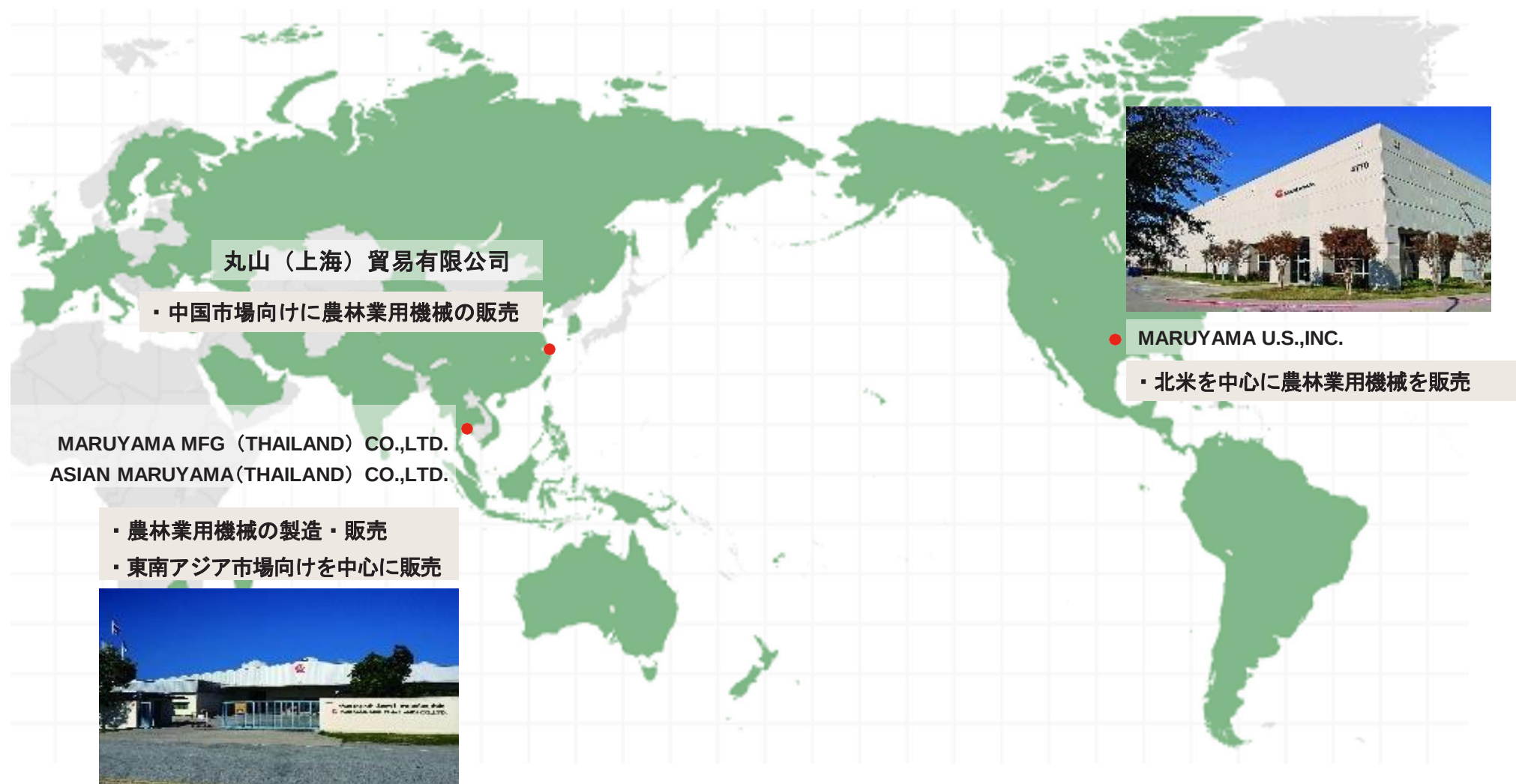
物流拠点（福島）



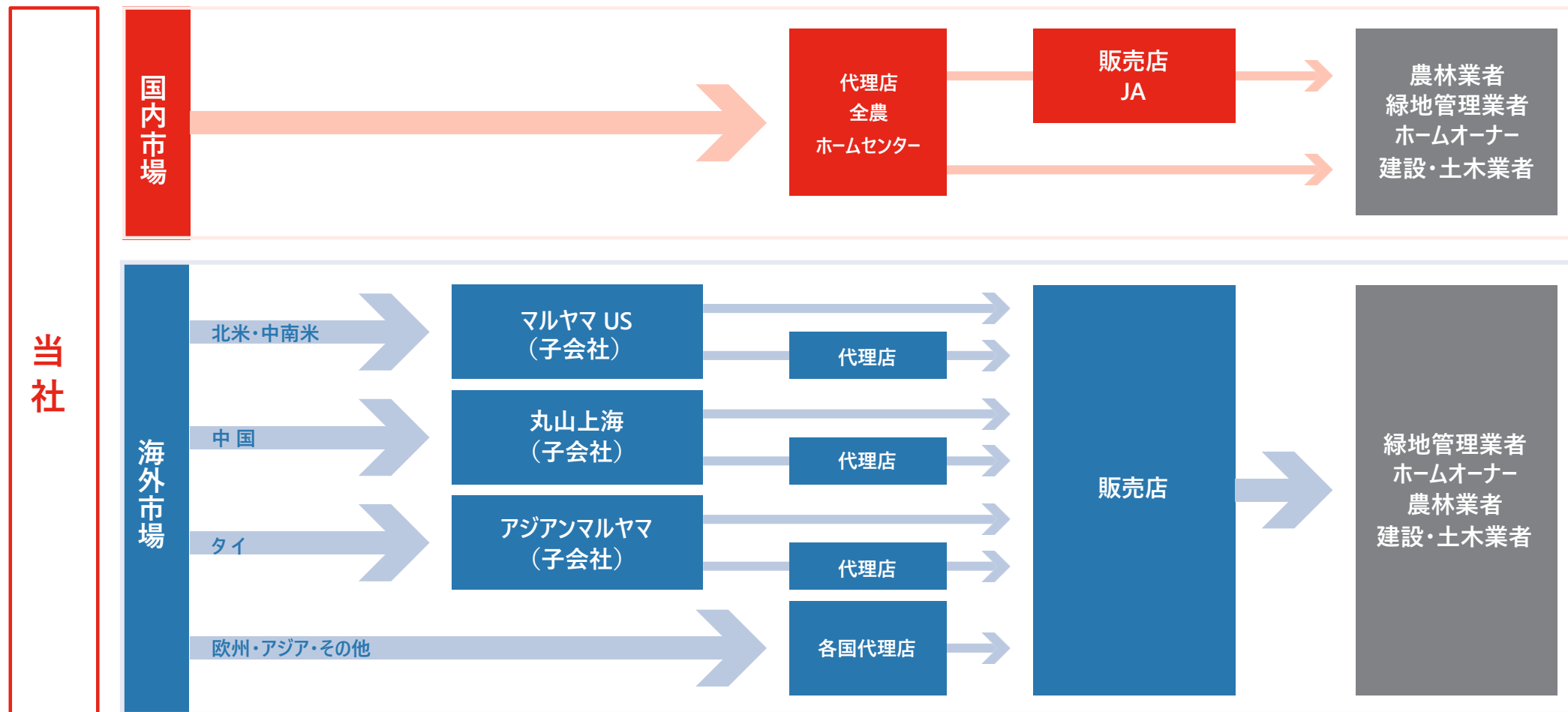
西部丸山（岡山）



海外の販売・生産拠点



主な販売経路



ポンプを使用した工業用製品

スパウターによる消臭作業



テーマパークで使用するミスト



高圧洗浄機



温度管理ミスト



カーウォッシャー



災害時緊急給水 RO



ポンプを使用した農業用製品

スタジアムの抗菌 抗ウイルスコーティング



牛舎での除菌作業



【畑・ビニールハウス】

背負動力噴霧機



【果樹園】

ステレオスプレーヤ



【田・畑】

ハイクリboom



【中山間地】

ドローン



エンジンを使用した製品

刈払機



ブロワー



ヘッジトリマー



チェーンソー



背負動力噴霧機



当社の強み（生産体制）

丸山グループは設計・製造からお客様のお手元に製品が届くまで、グループ内で一貫して行なっております。



(株)シバタとの合同出資会社「ファインバブルテック(株)」設立



当社は、数年前より超微細気泡「ウルトラファインバブル」を用いた製品の開発・販売に力を注いでまいりました。

この度、ウルトラファインバブル製品開発を行っている株式会社シバタと、当社がそれぞれ共同出資を行い、ウルトラファインバブル製品を研究・開発する新会社「ファインバブルテック株式会社」を設立し、2022年10月1日より営業を開始いたしました。

ファインバブルテック(株)はシバタ社のウルトラファインバブル発生技術と、当社のポンプ技術を活用して、新たなウルトラファインバブル製品の設計・開発を行うことを目的としております。

今後は、人々の生活や産業に関わる製品開発を行っていくほか、研究機関や専門家との協業も行い、より広く、より身近にウルトラファインバブル製品を展開できるよう邁進してまいります。

社名：ファインバブルテック株式会社

所在地：東京都千代田区内神田三丁目4番15号

資本金：1,000万円

出資比率：株式会社シバタ50%、株式会社丸山製作所50%

代表取締役会長：内山 剛治

代表取締役社長：柴田 芳樹

設立日：2022年9月20日／営業開始：2022年10月1日

ウルトラファインバブルシャワーヘッド「habiller（アビリア）」発売



レイニーストリーム

最も水量が多く柔らかな肌当たりが特徴。全身を優しく包み込みます。



シルキーストリーム

細く勢いのある水流が特徴で、肌に近づけて当てることでマッサージ効果が期待できます。



habiller（アビリア）



ラインストリーム

程よい水圧でまっすぐ出てくる水流。しっかりとした浴び心地が得られるため、背中などの広い範囲を温めるのに最適です。

当社は、ウルトラファインバブルが発生するシャワーヘッド

「habiller（アビリア）」を開発・発売いたしました。

アビリアは、当社がウルトラファインバブル事業を柱に今後も注力していくため、一般消費者向けに開発を行ったものであります。用途によって3段階で水流を調整することができ、全てのモードでウルトラファインバブルが発生します。

発生するウルトラファインバブルは1 mlあたり約1億個にもものほり、 $0.1\mu\text{m}$ 前後の気泡サイズのため毛穴の奥にも入り込むことができ、髪と肌にうるおいを与えながら余分な皮脂や汚れを落とします。

当社は、今後も新しい分野・市場の開拓等、チャレンジを絶えず行ってまいります。

1. 肌や髪への優しさを追求した結果たどり着いた1億個の泡
2. 大きくて丸い形のシンプルなデザイン
3. シャワーヘッドを付け替えるだけの手軽で簡単な取り付け

東金市にシャワーヘッド「habiller（アビリア）」を寄贈しました



当社は、ウルトラファインバブルシャワーヘッド「habiller（アビリア）」18個を東金市に寄贈いたしました。

寄贈したシャワーヘッドは東金アリーナのシャワー室に設置していただく予定となっております。東金アリーナは災害発生時の避難所として収容数1,070名の受入れ先となるため、アビリアを施設の環境整備品として設置し、衛生環境の維持に役立てていただきたいと思いますと考えております。

当社は今後も、地域社会への貢献活動を継続してまいります。

株主優待

- ・株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式に対する中長期的な投資魅力を高めることを目的として、株主優待制度を実施しております。
- ・ESG活動の一環として本年度よりQUOカード1枚につき10円を社会貢献団体に寄付することとし、自然保護等に役立ててまいります。

【贈呈対象】

2022年9月30日現在の当社株主名簿に記載されており、100株以上の当社株式を1年以上継続保有されている株主様

(継続保有期間) 1年以上3年未満	100株以上	QUOカード1,000円分
(継続保有期間) 3年以上5年未満	100株以上200株未満	QUOカード2,000円分
	200株以上	QUOカード2,500円分
(継続保有期間) 5年以上7年未満	100株以上200株未満	QUOカード3,000円分
	200株以上	QUOカード4,000円分
(継続保有期間) 7年以上	100株以上200株未満	QUOカード5,000円分
	200株以上	QUOカード6,000円分

注) 1. 2017年4月1日を効力発生日とする、普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。

2. 継続保有期間の確認にあたっては、3月31日及び9月30日の株主名簿に連続して記載される同一の株主番号の回数並びに各回において100株以上の確認を基準といたします。

・1年以上3年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続3～6回記載

・3年以上5年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続7～10回記載

・5年以上7年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続11～14回記載

・7年以上：株主名簿に100株以上の保有を、連続15回以上記載

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

【 I Rに関するお問い合わせ先】

株式会社丸山製作所
人事総務部

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-15

TEL : 03-3252-2271

E-mail : ir-contact@maruyama.co.jp